

Green Brave

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT4

2023年3月18日(土)~19日(日)

スーパー耐久シリーズ 2023 Powered by Hankook 第1戦 SUZUKA S耐 5時間レース (三重県鈴鹿市)

Powered by **HANKOOK**
driving emotion

SuperTaikyū
Japanese Endurance Race

ENEOS

■ 厳しい戦いを強いられるも展開が味方しデビューウインを達成

Green Braveは昨年までのクラウンRSに代わり、GR Supra GT4をST-Zクラスに投入。ST-ZクラスはGT4と呼ばれる市販レーシングカーで争われるクラスで、トヨタや日産、ポルシェなどのGT4車両が戦う激戦区です。エントリー台数は11台。昨年から大きく変わったのがAドライバーに関するレギュレーション。Aドライバーは全クラス一律でアマチュアのみと定められたため、チームはGR Supra GT4での実戦経験を持つ、山崎学選手を起用。服部、吉田、川合のGBドライバー3選手と力を合わせて戦います。

土曜日(予選日)の天候は曇。午前中に降った雨がコースに残っているため、A、Bの順番を入れ替えて予選が行われ、Bドライバーの吉田選手が開始約4分でコースイン。5周目に2分10秒677のベストタイムをマークし、3位につきました。Aドライバーの予選は1時間後に行われ、山崎選手が吉田選手のアドバイスを受けてコースイン。3周目に2分11秒317のトップタイムをマークし、両ドライバーの合算タイムにより、ポールポジション(PP)が確定。GR Supra GT4は昨年末に走り出したばかりで、最適なセットアップを探している段階ですが、4人のドライバーの評価はまずまず。高いチーム力を発揮し、初戦でPPを獲得できました。

日曜日(決勝日)の天候は晴。チームはスタートドライバーに吉田選手を起用。川合→山崎→服部とつなぎ、巧みなピット戦略で逃げ切りを狙います。11時50分、5時間の決勝レースがスタート。吉田選手は#885GR Supraと#26Zに抜かれ、3位で1周目を終了します。前日から上がった気温により、クルマのフィーリングが変化。ライバルについていくことができません。3~4位を走行する展開が続く。29周目、ST-2クラスのクルマがコースアウトしたタイミングでピットイン。直後に2回目のFCY(フルコースイエロー)が導入され、狙い通りのタイミングに。タイヤ交換と給油を行い、川合選手がピットアウト。FCYはその後、セーフティカー(SC)の先導に切り替わります。35周目からレース再開。少ないロスでコースに復帰した川合選手は2位につけており、トップの#19ケイマンを追いかけます。40周目にはテールトゥノーズとなりますが、抜くまでのスピード差はなく、タイヤを温存しながら走行。55周目、#19ケイマンがピットインしたタイミングでスパートをかけ、トップに復帰します。68周目、3回目のFCY解除後にピットイン。タイヤ交換と給油を行い、山崎選手がコースに入ります。

山崎選手の順位はトップですが、ライバルはFCYのタイミングに乗じて3回目のピットインを終えており、優勝は難しい状況。さらに山崎選手は#885GR Supraの接近を許し、90周目にはテールトゥノーズとなります。山崎選手の走行義務(75分)はクリアしたものの、チームはFCYの機会を待つために、走行継続を指示。山崎選手もこれに応え、力強い走りでもトップをキープします。ところが97周目、ST-5クラスのクルマによるクラッシュが発生。すぐにFCYが導入され、ピットに入ることはできませんでしたが、赤旗によりレースは中断に。場内の設備に損傷がある上に残り時間は45分ほどになっており、レースコントロールの判断に注目が集まります。短い中断の後、レース終了が発表され、Green Braveの優勝が確定。苦しい状況の中でも最後の最後で展開が味方し、デビューウインを達成しました。

なお、第1戦には埼玉トヨペットの各拠点から7名の店舗メカニックが参加。トヨタ純正レーシングカーでの初戦となりましたが、安定したピット作業を披露し、優勝に貢献。お互いの健闘を称え合いました。

決勝結果(ST-Zクラス)

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT4
(山崎 学/吉田広樹/服部尚貴/川合孝汰)
決勝：1位(98周、4時間17分24秒381)
予選：1位(合算タイム4分21秒994)



DRIVERS VOICE

予選もできずと思ったのですが、今日の優勝もできず。レースのいろいろな流れの中で、チームの判断が引き込んだ優勝だと思います。クルマは吉田選手から聞いていた通り、思うような方向ではなく、苦しい感じはありました。それと同時に、チームがまくを落ち着かせてくれ、細かく指示を出してくれたので、その通りにやっただけです。本当にチーム力の賜物だと思います。最後まで生き残り、ペナルティを受けないことが大事だと、今日のレースが教えてくれました。(山崎 学選手)

GR Supra での初めてのレースですが、予選の時の乗りやすいバランスではなく、さらに自分も足りてなくて。正直抜かれるだけの苦しい展開でした。自分のステイットで無理するのではなく、完走することが最低条件だったので、いい意味で他人頼み。チームの作戦や他のドライバーにお願いするという思いで走っていました。今の状況では仕方ないと思います。ピットインのタイミング、1 回目の FCY は逃していましたが、2 回目の FCY はタイミング良く拾うことができました。落としてしまった順位を取り返せたので、チームに助けられたと思っています。(吉田広樹選手)

予選から決勝まですべてミラクルで、PP と優勝することができました。結果は良かったけど、長く走れたから、まだまだやらないといけないところが多く見え、いいレースになりました。チームですから、私が乗ろうが乗るまいが、そこが一番大事なところで。最終的に自分たちにプラスになった赤旗ですが、今回のようなダメな時に勝てるということが大事で、今後のシーズンにつながると思いますし、次回までにやることはいっぱいあるので、気を引き締めて次に挑みたいと思います。

(服部尚貴選手)

前を抜くきっかけを作れたかったのですが、ST-Z クラスはいろいろな車種が走っている上に性能調整もあり、コースの中で得意、不得意のところが出てしまいます。ストレートとブレーキはこっちが不利で、コーナーで追いついても勝負は難しい。ポルシェが先にピットに入るのわかっていたので、タイヤを無理に使わずに相手のペースについていて、ピットインに入ったタイミングでスパートをかけようと思っていました。2020 年のクラウン RS 以来のデビューウインを達成することができ、チームとしてもドライバーとしても大きいと思います。

(川合孝汰選手)

ST-Z クラス決勝結果

1 位 : 埼玉トヨペット GB GR Supra GT4 (トヨタ GR スーブラ)	98 周
2 位 : raffinee 日産メカニクチャレンジ Z GT4 (日産 Z)	97 周
3 位 : シェイドレーシング GR SUPRA GT4 (トヨタ GR スーブラ)	97 周
4 位 : BRP★SUNRISE-Blvd718GT4 RS (ポルシェ ケイマン)	97 周
5 位 : ナニワ電装 TEAM IMPUL Z (日産 Z)	97 周
6 位 : Porsche EBI WAIMARAMA Cayman GT4 RS CS (ポルシェ ケイマン)	96 周

出走 11 台 トップ 6 まで

ST-Z クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1 位	52	埼玉トヨペット Green Brave	32
2 位	26	TEAM ZEROONE	22.5
3 位	885	SHADE RACING	18
4 位	19	Birth Racing Project【BRP】	15
5 位	20	ナニワ電装 TEAM IMPUL	12
6 位	22	Porsche Team EBI WAIMARAMA	9

トップ 6 まで (全 11 チーム)

【NEXT RACE】第 2 戦 5 月 26 日 (金) ~ 5 月 28 日 (日) 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

Green Brave PARTNERS



赤城車体工業株式会社



EMG ルブリカント合同会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社 FM NACK5



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



崎群スリーボンド株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社西武ライオンズ



ティーズ・ワークス



株式会社デンソーソリューション



株式会社ドーム



トヨタホーム東京株式会社



トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社



ファクトリーギア株式会社



富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社



丸和工業株式会社



Mechanix Wear LLC

※50 音順